

2026年6月16日

フタバ産業株式会社

レクサス新型「ES」に当社製品が採用

フタバ産業株式会社（本社：愛知県岡崎市、社長：魚住 吉博）の製品が、2026年6月11日に発売のレクサス 新型「ES」に採用されました。

今回採用された主な製品

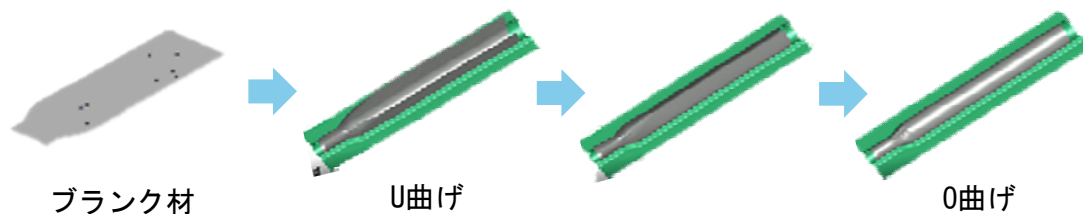
■インパネリインフォースメントの“偏芯”巻きパイプによる広い視界の確保

当社では従来より、U0曲げなどの造管加工や異径加工といった、インパネリインフォースメントの基本骨格を形成するパイプ加工技術を保有しています。

ESの前モデルでは、パイプの中心をずらさずに縮管する同芯巻きパイプが採用されていましたが、今回、パイプ中心を大きくずらし縮管加工する「全偏芯巻きパイプ」が当社での成形品としては初めて採用されました。（図参照）

このパイプの採用によりインパネ上面が14mm下がり、より広い視界の確保を実現させました。全偏芯巻きパイプは曲げ加工時にシワができやすいという課題がありましたが、成形シミュレーションの精度向上により材料の動きをコントロールしシワを低減し課題をクリアしました。

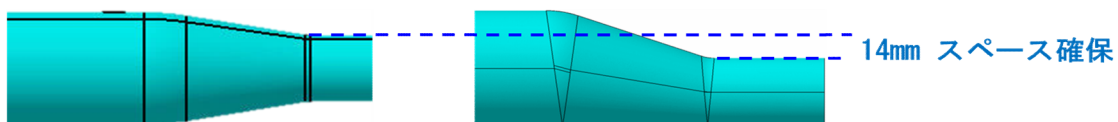
◇造管加工・異径加工技術



◇同芯異径巻きパイプと全偏芯異径巻きパイプ

同芯巻きパイプ

全偏芯巻きパイプ



■リサイクル鉄の活用

通常は鉄鉱石から精製された鉄（高炉鋼）を利用していますが、今回、100%鉄スクラップを原料とし、製造時のCO₂排出量を高炉鋼の約5分の1に抑えられるリサイクル鉄（電炉鋼）を初めて購入し、インパネリインフォースメントのブラケット部品に使用しました。

リサイクル鉄にはスクラップ由来の成分が一定割合含まれるため、安定加工に向けた課題がありましたが、お客様と一緒に成型性と溶接性の確認を十分行うことで品質を担保し、量産を実現させました。

■中規模組立部品の継続受注、1470MPa冷間超ハイテン材使用部品の受注

今回「エプロン」「ルーフサイドインナ」「ホイールハウスインナ」「ロッカーインナ」の中規模組立部品4部品が採用されました。
当該部品は、構想・設計段階から自動車メーカーに対して提案を行うことで、レクサスRXと同一ラインでの生産を行い、省スペース化および投資削減を実現しました。

また、今回1470MPa冷間超ハイテン材を使用した「ロッカーインナ内部のリインフォース」と「センタークロス内部のリインフォース」が採用されました。
本部品を生産する当社グループ会社のフタバ九州としては、初めての1470MPa冷間超ハイテン材部品の受注となり、フタバ産業としてもアンダーボデー部品で初めて1470MPa冷間超ハイテン材部品が採用されました。
早期からSE*活動を進め、フタバ九州のプレス機に対応した工法検討と形状提案を行いました。これによりフタバ九州での生産を実現し、コスト低減に貢献しました。
*SE (Simultaneous Engineering) 生産技術や製造部門が設計に参加する活動

■今回採用された主な製品箇所

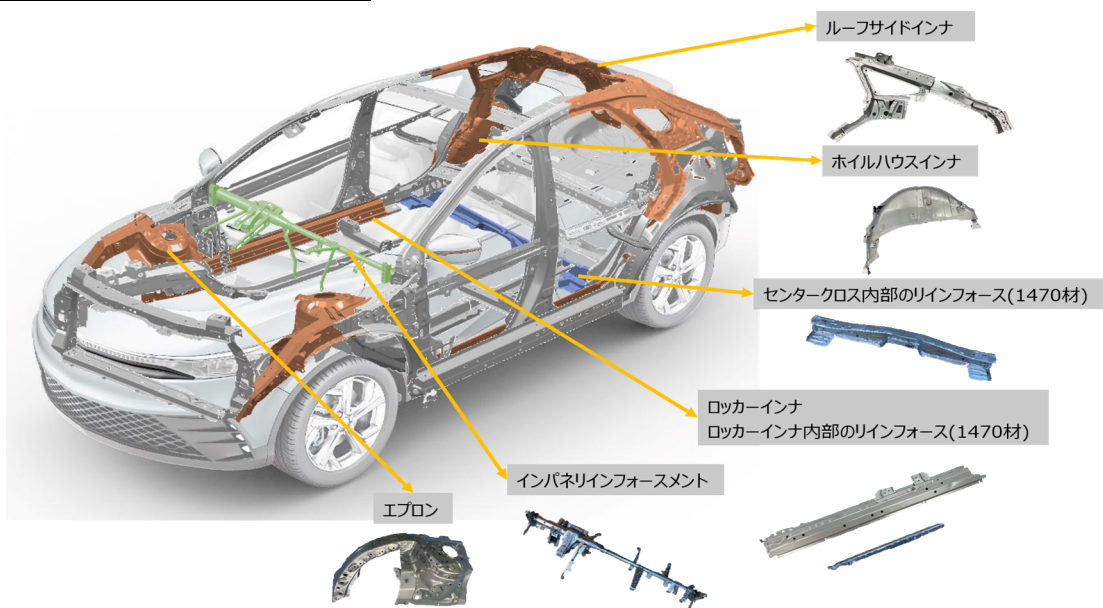
◇イメージ図

※ 青色：1470MPa冷間超ハイテン材 オレンジ色：中規模組立部品

緑色：インパネリインフォースメント

採用製品による効果

CO ₂ 排出量削減	小型化
環境負荷物質低減	消音化
軽量化	安全性



当社は、これからも環境・社会課題の解決を目指し、培ってきた「技術開発力」と「モノづくり力」を活かして、「環境」「安全」「豊かな生活」で時代をリードしていきます。